

1月 給食だより

令和5年1月10日
調布市立北ノ台小学校
校長 野口 直也
栄養士

謹賀新年

新年を迎え、気持ちも新たに3学期が始まりました。冬休み中に、生活リズムが乱れてしまった人はいませんか？寒くて起きるのがつらい時期ですが、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べて元気に登校しましょう。



冬の野菜は甘い!?

冬が旬の野菜は、寒さで凍らないよう、細胞に「糖」を蓄えるため、甘く感じます。また、雪がたくさん降る地域では「越冬野菜」といって、秋に収穫する野菜をそのまま埋めておき、雪のなかで保存する方法があります。寒さで野菜の甘味やうま味が増して、よりおいしくなるそうです。冬ならではの野菜の甘味をぜひ味わってみてください。

1月のこんだてより

12日(木) 七草あんかけごはん

今年最初の給食は七草あんかけごはんです。新年のはじまりとなる1月には、新しい1年間を無事に過ごせるように、さまざまな行事食が食べられてきました。春の七草もそのひとつで、無病息災を願って「人日の節句(1月7日)」に食べる風習があります。今年は野菜が苦手な人も食べやすいように、しょうゆ味の“あん”に七草を入れたあんかけごはんにしました。みなさんが、今年も元気に過ごせるように、願いを込めて作ります!!



《給食費の振替について》

1月の給食費振替日は5日(木)です。未納となりませんよう、残高の御確認をお願いします。各学年の振替額は、以下のとおりです。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
振替額	4,450円		4,650円		4,850円	

1月24日~30日は 全国学校給食週間です 学校給食について知ろう!

学校給食は、単なるお昼ごはんではありません。健康に良い食事のとり方や地域の食文化、感謝の気持ちなど、多くのことを学ぶための教材として、様々な教育的効果が期待されています。しかし、元々は子どもたちのために学校でお昼ごはんを提供したことが始まりでした。学校給食の歩みを見てみましょう。

学校給食の始まり

日本の学校給食は、1889年、山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)にあるお寺に建てられた私立忠愛小学校で始まったとされています。お坊さんがお経を唱えていただいた米や野菜、お金を使って、貧しい家庭の子どもたちに食事を用意したそうです。その後、給食は国から奨励されて各地へ広まりましたが、戦争による食料不足の影響で実施できなくなってしまいました。



支援物資による学校給食の再開

戦争が終わると、子どもたちの栄養状態を改善するため、アメリカのLARA(アジア救援公認団体)からの援助物資で学校給食が再開され、援助物資の贈呈式が行われた12月24日が「学校給食感謝の日」と定められました。現在は、冬休みと重ならない1月24日から30日が「全国学校給食週間」とされています。



アメリカから寄贈された小麦粉でパンが作られ、「パン・ミルク・おかず」の完全給食がはじまりました。

学校給食は教育活動に

1954年に学校給食法が公布・施行され、学校給食は、教育活動として実施されることになりました。それから、時代の移り変わりとともに子どもたちの食生活を取り巻く環境は大きく変化し、学校給食の内容も変わっていきました。